

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 493

事務事業名	子ども読書活動推進事業	
基本目標	010202	人を育むまち
政策		豊かな学力と生きる力を育む教育の充実
施策		小・中学校教育の充実
関連施策		

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	教育委員会		
課名	学校教育課		
課長名	丹野平三	内線	365
担当者名	横田和重	内線	367

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

会計	一般会計		
款	1	教育費	
項	10	教育総務費	
目	2	事務局費	
事業コード	100000	子ども読書活動推進事業	

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	市立小・中学校の施設並びに児童及び生徒		
意図 対象をどのような状態にしたいか	子どもの読書活動を推進し、児童生徒の「豊かな学力」の向上に資するとともに、学校図書館ネットワークシステムを活用し、児童生徒が利用しやすい図書室をつくる。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	学校司書を常駐させ、蔵書整備や学習センターとしての機能の充実等、本と子どもをつなぐ取組を実施する。また、学校図書館ネットワークシステムを活用し、利用しやすい図書室づくりを行う。		
事業期間	平成 24 年度	～	平成 年度
実施方法	直営		
根拠法令、要綱等			
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標 ①	学校司書の人数	計画値	2	15	15	15	
		実績値	2	15	15		
		達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
活動指標 ②	学校図書の出数	計画値	220,000	320,000	320,000	400,000	
		実績値	312,767	310,984	398,959		
		達成度	%	142.2%	97.2%	124.7%	
成果指標 ①	学校司書の人員数配置校数(兼任校含む)	計画値	21	21	21	21	
		実績値	21	21	21		
		達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
成果指標 ②	子ども読書活動を推進し、児童生徒の「豊かな学力」の向上を図ることができる。	計画値					
		実績値					
		達成度	%				

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	13,866	13,797	14,507	15,261	15,159	15,159	15,159	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	56	56	56	58	58	58	58	
一般財源	13,810	13,741	14,451	15,203	15,101	15,101	15,101	
② 人件費(千円)	2,384	2,544	1,461	1,091	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.30	0.33	0.20	0.15				
時間外勤務(時間)		25	25					
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	16,250	16,341	15,968	16,352				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組を しましたか(昨年度の【ACTION】の 改善・改革の進捗等)	平成26年度から市内全小・中学校21校に配置した学校司書(兼務を含む15名)は、学校図書館ネットワークシステムの効果的運用や利用しやすくなる図書館づくりをはじめ、児童の読書環境整備等に担当教師と連携しながら効果を上げている。 また、学校図書館ネットワークシステムについても、各学校の司書教諭(図書担当)の蔵書管理が適正に行われると共に児童会・生徒会の委員会活動の活性化が図られてきた。毎年度検証を行いながら適正な運用を行っている。
事業が抱える問題・課題等	子どもの読書活動を推進し、児童生徒の「豊かな学力」の向上に資するため、平成28年度も小規模校2校を除く小・中学校に配置している。その効果は明らかであり、図書室を有効に活用し読書活動を推進するには、学校司書の継続配置は必要である。 学校図書館ネットワークシステムは、貸出返却作業の効率化、貸出及び蔵書の管理等において、不可欠なものである。しかし、現在使用しているシステムは、不具合がでた場合修正に時間を要したり、他の学校に影響を及ぼしたりすることがあり、貸出を停止しなければならない状況も生まれている。契約先の変更を含め、検討する余地がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	学校司書を配置することにより、児童生徒の読書環境が整備され、子どもたちが利用しやすくなる魅力ある図書館づくりにつながる。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市立小・中学校の図書館の利用環境を整えることは、国の動きからも教育上欠かせないものであり、市の関与の必要性は高い。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	学校司書の配置により、図書館の環境整備が一層進められ、貸出冊数の伸びも顕著である。今後も司書教諭との連携により、児童生徒の利用率は高くなることが十分期待できる。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	学校司書の配置により、学校図書館の環境が充実することは、図書に対する児童生徒の意欲が高まり、読書量の増加につながるものとする。そのことは、豊かな学力の育成につながるものである。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	学校司書については、過年度の効果検証の結果を踏まえ、15名を市内21校に配置としている。また、学校図書館ネットワークシステムについては、保守料のみであり、削減の余地はない。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	学校司書を、継続して専任(一部兼任)化し、担当教師や他校の学校司書と連携しながら蔵書整備や学習センター機能の充実、学校図書館ネットワークシステムの運用等を行い、児童生徒が利用しやすい図書室をつくる。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	児童生徒が感性・創造性豊かに現代社会を生き抜くためには、心を伴った「豊かな学力」の向上に資する必要がある。そのために、学校司書を配置することで、蔵書整備や学習センターとしての機能の充実等、本と子どもをつなぐ取組を一層深める。未来を担う子どもを育成するうえでは、読書活動を推進することは重要である。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等	読書活動の推進は学力向上のみならず、生涯を通して図書に親しむ素地づくりに重要であるとする。今後も整備充実を図りたい。		内容		

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。